

2016年度春秋シカ調査結果報告

長野県環境保全研究所

調査者：自然保護センター職員、パークボランティア、長野県環境保全研究所

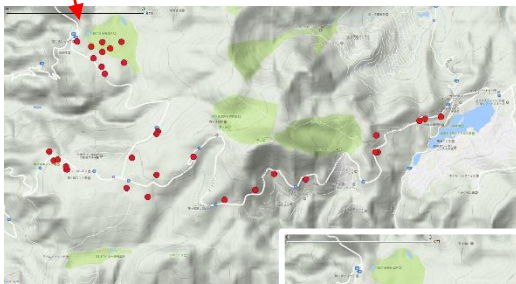
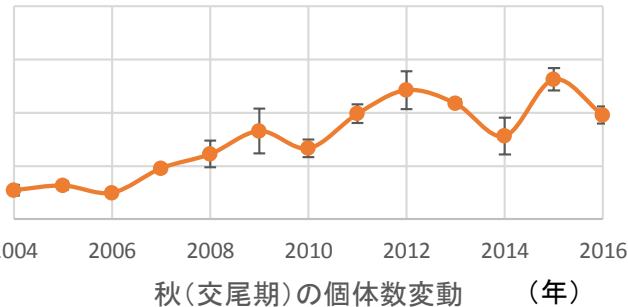
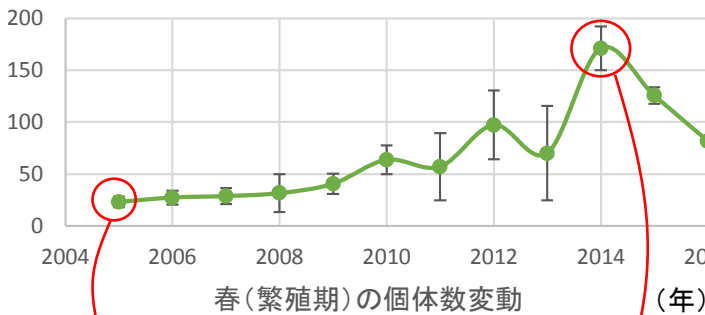
調査日：春 5/24,6/17,6/20,6/23 秋 10/31,11/1,11/4,11/7

調査方法<ライトセンサス>

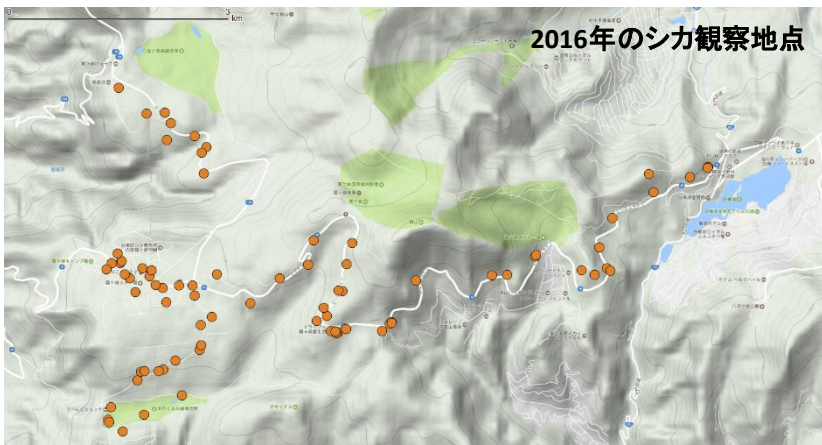
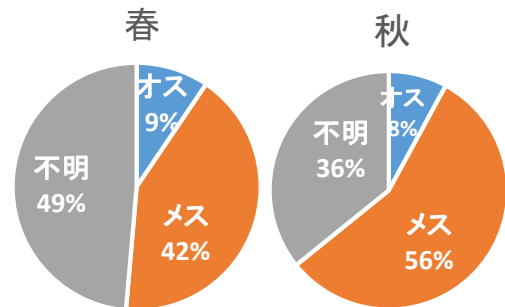
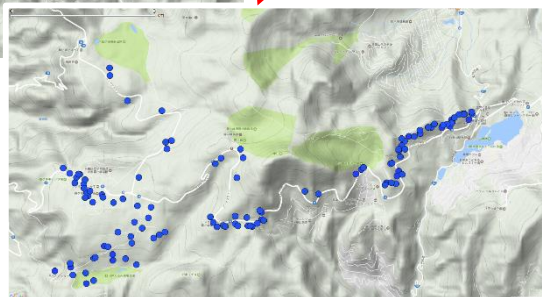
- ・調査コースは、大門峠～霧ヶ峰キャンプ場、池のくるみ踊場湿原～八島ヶ原高層湿原の合計約20キロ
- ・日没後に、調査コース沿いに出没するニホンジカ個体数を目視によりカウント
- ・観察時は、調査コースの左右を強力なライトで照らしながら、時速10~20kmで走行
- ・観察範囲は、障害物がない場合で左右約50m
※観察範囲は、コース沿いの植生構造や地形、道路側面のコンクリートの高さ、天候により異なる

調査結果のまとめ

- ・観察された平均個体数は、春81.8(±15.7)個体、秋92.0(±16.0)個体であった
- ・両時期とも、観察個体数は昨年度より減少した
- ・雌雄が判別できた個体は全体の5~6割であった
- ・雌雄が判別できた個体のうち、秋のほうがメスの比率が高くなった。



個体数の多かった年(2014)のシカ観察地点



<シカが観察されている地点>

2005年 八島湿原、キャンプ場付近

↓

2014年 キャンプ場、霧ヶ峰スキー場
車山高原で観察数が増加
池のくるみ周辺にも出現

↓

2016年 どこでも観察されるが減少傾向
特にスキー場で大きな群れが
観察され個体数も多い